

風しんについて

風しんは、風しんウイルスによる急性の熱性発疹性感染症で、「三日はしか」とも呼ばれています。成人でも、過去に風しんにかかったことがなく、一度も風しんの予防接種を受けていない方は、免疫を持っていない可能性が高いため注意が必要です。この疾病が問題となるのは、妊娠している女性が風しんウイルスに感染すると、先天性風しん症候群の赤ちゃんが生まれる可能性があることです。

1 主な症状

発疹、発熱、リンパ節の腫れなど。

子どもでは一般的に症状は軽いとされていますが、まれに血小板減少性紫斑病、脳炎などの合併症(2,000人から5,000人に1人の割合)を発症することもあるため注意が必要です。

一方で、成人では、発熱や発疹の期間が子どもに比べて長く、関節痛がひどいことが多いとされています。

2 感染経路

インフルエンザと同じく飛沫感染(患者の唾液のしぶき等)、接触感染によって感染します。また、感染しても症状がでない方(不顕性感染)が15%から30%程度いるとされています。

ウイルスの排泄期間は発しん出現の前後約1週間とされています。

3 潜伏期間(感染してから発症までの期間)

2~3週間(平均16~18日)

4 先天性風しん症候群

妊娠初期の女性が風しんにかかると、胎児が風しんウイルスに感染し、難聴、心疾患、白内障及び精神や身体の発達の遅れ等の障害をもった先天性風しん症候群の赤ちゃんが生まれる可能性があります。なお、この可能性は、風しんにかかった時期により違いがあり、妊娠12週までが最も高いとされています。

5 風しんにかかるリスクの高い方

過去に風しんにかかったことがなく、一度も風しんの予防接種を受けていないため風しんの免疫がない方。過去の罹患歴や予防接種歴が不明な方は、費用はかかりますが、医療機関で風しんの免疫があるか検査できます。

なお、予防接種を受けても免疫がつかない方が数%います。また、予防接種を受けていても期間がたつと、免疫が低下することがあります。さらに、過去に風しんにかかったと思っけていても、検査診断で風しんと判明していない場合は、他の疾病であった可能性があります。

特に30~50代前半の男性は、1977~1994年まで風しんの定期予防接種の対象者が女子中学生に限られており、風しんの予防接種を受ける機会があまりなかった世代にあたるため、5人に1人が免疫を持っていません。一方で、この世代の女性は概ね95%以上の方が免疫を保有していますが、全ての方が免疫を保有しているわけではありません。(出典:厚生労働省による感染症流行予測調査事業)

6 予防と治療について

個人でできる唯一有効な予防方法は、風しんの予防接種を受けることによって、免疫を獲得することです。

風しんにかかってしまったら、特別な治療方法はなく、症状を軽減するための対症療法しかありません。また、他の方にうつさないように配慮することが重要です。

○予防のために

1 予防接種を受けましょう。

(1) 麻しん風しん定期予防接種

現在、本市では、下記の表のとおり麻しん風しん定期予防接種を行っています。対象年齢の方で一度も風しんの予防接種を受けたことがない方は速やかに受けましょう。

	対象年齢	接種費用
第1期	生後12か月以上24か月未満の方	無料
第2期	年長児相当(小学校就学前年度の方) 平成24年4月2日～平成25年4月1日生まれの方	

(2) 定期予防接種対象者以外の方

任意接種となり、接種費用が有料(医療機関により異なります。)となりますが、自身への感染を予防すると同時に、妊娠している女性、家族及び職場の方等にうつさないためにも予防接種を受けましょう。本市では、妊娠を希望する女性、妊娠を希望する女性のパートナー及び妊娠中の女性のパートナーを対象とした予防接種の費用助成を実施しております。

(名古屋市公式ウェブサイト「風しん予防接種の費用助成について」:<http://www.city.nagoya.jp/kenkofukushi/page/0000087308.html>)

なお、妊娠中の方は、風しんの予防接種を受けることはできません。また、風しんの予防接種を受けた女性は、2か月間避妊する必要があります。

風しんの予防接種を実施している医療機関については、あいち医療情報ネット(愛知県)ウェブサイトから検索することができます。

2 外出先から戻ってきた時は、手洗い・うがいをしましょう。

○他の方にうつさないために

- 1 全身性の発疹などが現れたら、必ず事前に医療機関に電話連絡をして相談のうえ、早めに医療機関を受診しましょう。受診時は周囲への感染を防ぐためマスクを着用し、公共交通機関の利用は避けましょう。
- 2 風しんと診断されたら、可能な限り自宅で安静に過ごしましょう。
- 3 他の人にうつさないためにも、「咳エチケット」を守りましょう。

～『咳エチケット』とは～

◎咳・くしゃみの際にはハンカチやティッシュなどで口と鼻を押さえ、周りの方から顔をそむけましょう。

◎使用後のティッシュは、すぐにフタ付きのゴミ箱に捨てましょう。

◎症状のある方はマスクを正しく着用し、感染防止に努めましょう。